

まさゆき新聞

M A S A Y U K I

S H I N B U N

編集・発行：サウンド&ミュージック クリエーション

〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼 1-11-14 パレスビル 2F TEL044-855-0111 FAX044-788-1727

まさゆき倶楽部事務局 東興華空間 目黒区柿の木坂 3-3-1 TEL03-3414-7562 FAX03-3410-5130

1999年も早3月、21世紀へむけての時間は刻々と過ぎてゆきますが、新たな目標にむかって皆様、各々お過ごしのことと思います。

毎年、必ず一つは、新しい企画に挑戦したく思い、それを一つ一つ作り上げていく作業を日々、大切にしたいと思っております。昨年暮れに来日した、今世紀最大のヴィルトゥオーソ、ルツジェーロ・リッチも80才を迎えてなお、エネルギーを我々に、存分に与えてくれ、これからの若い演奏家達に貴重な時間と財産を分けてくれました。

私もこの一年、元気に演奏生活をおくり、皆様とコンサートを共有する事を楽しみにしております。

ロンドンにて 木野雅之

人生にとつての感動的思い出

——サントリーホールでの共演——

日本フィルハーモニー交響楽団
正指揮者 広上淳一氏

80才という高齢にもかかわらず、そのヴァイオリンから奏される音楽は、私たちを大きく包み込み、至福の時を存分にもたらしくれました。右手の技巧の高みはますます磨きがかかり、特にヴァイオリニスト達にとつては、今世紀のおそらく最後の真のヴィルトゥオーソ的巨匠としての魅力を余すところなく、堪能できたのではないでしょう。私は指揮者という職業を忘れて彼の一音楽ファンとしてステージに上って居りました。私の人生にとつての、感動的思い出になりました。

あこがれのルツジェーロ・リッチ
神々しい生演奏に涙

クラシック音楽から歌舞伎まで、幅広い芸術に精通していらつしやる小泉純一郎氏にルツジェーロ・リッチについて語って頂きました。

小泉純一郎氏

衆議院議員、1942年神奈川県生まれ、1972年以来衆議院に9選、郵政大臣、厚生大臣を務める。著書に「小泉純一郎の暴論、青論」等がある。

——小泉さんは、クラシック音楽にご造詣が深いと、演奏家をはじめいろいろな方から伺っております。ルツジェーロ・リッチの演奏の出会いからお話いただけますか。

小泉さん 僕が最初好きになった音楽が、ヴァイオリンだったので。横須賀市立中学校で、音楽に熱心な先生がいらして、オーケストラを始めた時に、そのクラブで初めてヴァイオリンを手にしました。それから、ヴァイオリン音楽に興味を持つようになり、初めて買ったレコード、当時はLPレコードで、メンデルスゾーンとチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲だったんです。

——そのレコードの演奏者はどなたでしたか。

小泉さん その時は、ジノ・フランチェスカッティでした。それからだんだんヴァイオリンの曲にのめり込んでゆき、聴くのはすべてがヴァイオリン協奏曲だったんですが、そうして、ルツジェーロ・リッチを知ったのです。リッチの演奏、特にパガニーニの音楽を聴いて、これは素晴らしい！よくここまでヴァイオリンの能力を活かして、弾きこなせるなど。技巧的にも、音楽的にも、美しいメロディー。非常に関心を持つようになったのです。生ではなかなか聴ける機会はなかったのですが、レコードでもつばら聴いていたんですが、昨年、リッチさんが来日。まだ現役だったのかとびっくり。

それで聴きに行ったのです。(98.12.4
サントリーホール、12・8 浜離宮朝日
ホール)80才を過ぎてよくあれ程弾きこ
なせるなど、本当に神々しかったです
ね。弾いている姿を見ていて涙が出てき
ましたよ。

——今、小泉さんご自身は演奏されるの
ですか。

小泉さん 私自身はレコードを聴いて
みて、自分の音とこも違うものかと、
それで諦めて、もう聴くこと専門にまわ
りました。クラシックが好きになったの
は、最初ヴァイオリンからで、今は、オ
ペラ、シンフォニーも好きなんですけ
ど、自分が一番琴線をゆさぶられる音楽
というのは、ヴァイオリンですね。聴く
ことに関しては私程聴いている国会議員
はいないと思います。

——皆さんそれはよくご存じていろいろ
なホールで小泉さんをお見かけすると
おっしゃっています。あらゆる分野をお
聴きでいらつしやいますね。

小泉さん むしろプロの音楽家より聴
いているかも知れません。プロの音楽家
はいろいろな曲を練習して弾く方が大変
ですから。音楽は最初あまり良いと思わ
ない曲でも、何回も聴いているうちに良
くなってゆく。又それが面白い。

——リッチさんはバガニーニの再来とま
でいわれていますが。

小泉さん リッチさんのバガニーニは
素晴らしい。最近リッチさんの「バガ

ニーニリサイタル」という昔録音した
復刻版のCDを買いましたが、その中の
無伴奏でイギリスの国歌、ゴットセイ
ブ、ザ キングは素晴らしいかったです
ね。

——木野雅之さんも、「メルヴェイユ」
というCDに入れています。たしか楽
譜はリッチさんと同じものです。

リッチさんは60枚以上のレコード、
CDを出され、バガニーニの24のカプリ
スは10枚程出ているようですが、たし
か世界で最初の全曲録音をされた方
ですね。

小泉さん バガニーニのカプリスは
技巧的だし、音楽的でヴァイオリンを
弾く人々にとつては欠かすことが出来
ないですね。練習曲であると同時に演
奏曲にもなる。リッチのレコード何枚
か持っていますよ。カデンツァがいろ
いろなものが入ったのがあります。

——池袋に弦楽器中心の特にヴァイオ
リン曲のCDが多く、なかなか手に入り
にくい物まで揃えた店があります。

小泉さん それは嬉しいことですね。
サントリーホールと浜離宮ホールと二
度聴きましたが、ルツジェーロ・リッ
チの演奏姿はヴァイオリンが身体の部
分、楽器が手足や関節の一部のよう
になつていてという印象を持ちました。
さすが巨匠と感ぜさせました。木野さ
んも若くて大変優秀なヴァイオリニス
トですね。ところでリッチさんと木野

さんの関係は？

——木野さんはリッチさんの愛弟子で
演奏旅行であらゆる国に連れて行って
いただいたり、自宅に泊めていただく
など親子のような関係で、今回の来日
も木野さんの尽力によるものです。

小泉さん 気になったことは、木野
さんがリッチさんを聴衆に紹介する時
に「彼は」と言つて紹介したが、師匠
であり、孫ほど年が離れていることを
考えれば、「先生」と言つた方がよ
かったと思いますよ。

——そうですね。そのように伝えてお
きます。今世紀最後の巨匠と言われる
リッチさんに是非また来日して演奏を
聴かせていただきたいと思いますが、
今後は演奏旅行は控え、CD録音を中心
にされていらつしやるようです。

小泉さん まあ、80才過ぎると身体
的にも技能的にもいろいろ問題が出て
くるのであまり無理もしないほうがよ
いと希望します。身体的にも調子の良
い時にCDを入れればよいし、また教え
ることは出来ずからね。

——最後にルツジェーロ・リッチに対
するお言葉をいただけますか。

小泉さん これ程の天才的ヴァイオ
リニストですから、ヴァイオリン音楽
の素晴らしいと、ヴァイオリンの演奏
を志している後輩に自分のもっている
ものをできるだけ多く残していただき
たい。歴史に残る巨匠の一人なのでこ

れからも元気で身体に気を付けていた
きたいと思います。本当に良い時にあ
がれていた人の「生」の演奏を聴くこ
とができて感動しました。

小泉さんから木野さんへひとこと

天の巡り合わせかどうか、幸いにして
ルツジェーロ・リッチと師弟の関係で演
奏が出来たのですからこんな幸運なこと
はない。「もう弟子でなく、演奏家とし
て対等だ」とリッチから言われたことは
最大の賛辞ですよ。今後木野さんがヴァ
イオリニストとして更に成長され、バガ
ニーニ全曲演奏を心掛けてほしい。24の
カプリスはもちろん、1番から6番まで
のヴァイオリン協奏曲、更にはいろんな
ギターとの小品、バガニーニの残ってい
る曲は全部弾きこなすくらいに気構えて
成長していただきたい。天才のリッチに
認められたのだからその豊かな才能
を磨いて大演奏家
として活躍してい
ただきたい、心か
ら期待しています。

インタビュアー

河合由里子
サウンド&ミュージック
クリエイション代表

MITTENWALD
クラシックCD専門・ミッテンヴァルト
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-19-6 松長ビル2F
TEL.03-5957-1512 FAX.03-5957-1513
http://www.jap.ne.jp/~violin E-MAIL violin@po.jah.ne.jp
PM12:00~PM9:00 年中無休

ルツジェーロ・リッチ マスタークラス受講生より

3年前の夏ザルツブルクで、初めてリッチ先生にお会いした。この時私は「パガニーニの再来」といわれる大巨匠リッチさんのレッスンを受けられると言う緊張、又弾く曲の伴奏譜を日本に忘れてたりといろいろなハプニングと時差ボケで疲労はピークに達していた。そこに先生が入っていらした。あれ？荒んでいたはずの神経が何故か和らぎ、今まで巨匠というもののイメージ、感情を表現せず、近寄り難いというものと全く違った。とても人間味溢れて魅力的なおじさんであった。つまり先生こそ人間としても本物の巨匠だと思ふ。そしてレッスンの時の“熱意”先生の前で演奏する時、何よりもそれを強く感じるので自然と自分の音楽に熱中できる気がする。リッチ先生からは音楽を通じて、人としての魅力についても教えて頂いたと思う。だから私は先生のレッスンを大好きです。

澤菜穂子

ルツジェーロ・リッチ先生のレッスンを受けて、一番印象に残っていること、それは、音楽の自然な流れを非常に大切にすること、そしてもう一つは、楽譜に書かれていることを表面上だけでなく、常に奥深くまで読まなければいけないということです。この二つことは、音楽家にとつては、わかっているつもり

でも、なかなか難しいことだと思えます。でもその事は、音楽をやる上で、一番大切なことだと思いました。又、リッチ先生の音楽の神髄にふれることができて、とても幸せでした。

清水英理子

ルツジェーロ・リッチ氏には、芸大でもみて頂く機会があり、今回2回目でした。もうかなりの高齢にもかかわらず今だにパガニーニのキャプリス全曲をいつでも弾けるといふには驚きました。また耳が良いのにも、さすがという感じでした。レッスンでは、楽譜通りのリズムとテンポで演奏するよう、しつこく言われました。最近の音の情報があふれていて、曲を勉強するのにまず耳から、という具合ですが、その中で僕は、やや楽譜に忠実に、ということを忘れていた気がします。それだけでなく、ゆつくりとさうらう等、ごくあたり前のことを非常に大切に考えているリッチ氏を見て、天才とは99%の努力から、という言葉は、まさ

にその通りだと感じました。

三上 亮

録音でしか知らなかったR・Ricciさんの姿は以外にも小柄な方でした。ブラームスのソナタを準備していたのですが、私も、少し緊張していたせいもあり、ピアノとうまく合わせられなかったのを的確に指摘していただいて、そして、ひとたび楽器を持つと全く年齢を感じさせないみずみずしい音楽を奏でられました。私の聴覚がいつどの方向へどのくらいに注意力で向けられているか、すぐに見抜かれてしまっていたようでした。レッスン後、巨匠ヴァイオリニストの秘蔵ヴァイデオを、マスタークラス参加者のみんなと和やかな雰囲気鑑賞する気さくな“巨匠”でもありました。木野さん(当日わざわざ通訳をしていただきました)とのでこばこ(?)師弟コンビとしてもとても楽しそうで、レッスン聴講もとても参考になり、有意義な時を過ごせたと思つていきます。

大音 徳

20世紀最後の巨匠と言われるルツジェーロ・リッチ氏のマスタークラスを、私は幸運にも受講することができました。リッチ氏はとても明るいお人柄で、時にひょうきんな一面を持った方でした。私の受講曲はベートーヴェンのソナタ第8番でしたが、リッチ氏からは、曲の演奏効果を上げるための良い弓の使い方や指使

いを指導して頂きました。また、リッチ氏独特の素晴らしいポウイングを直接拝見できたことも大変勉強になりました。このような貴重な経験を与えて下さいました木野先生を始め、関係者の方々に心より感謝致します。

佐野貴昭

'94年の夏、杉並公会堂の最前列中央に座つてリッチ氏の登場を今や遅しと待つていました。コンサートマスター木野先生の熱演のオーケストラで氏の演奏。パガニーニのヴァイオリン協奏曲第一番は音で聴いた、演奏の中で最も感動を呼ぶ！極限のテクニク！まさに魔術的要素をも含んだ凄じいものであり、完全にノックアウトされた状態でした。'98年初冬サントリーホール、浜離宮朝日ホール演奏会全て終えられて、神保町北沢ギャラリーでの公開レッスン、暖かい御人柄のじみでる木野先生の通訳。マエストロに手とり足とりの感で教えていただきました。氏の模範演奏では皆様始め私も舌を巻いてしまいました。

相原千興

北沢ギャラリー

イギリスの絵画が飾られている美しい空間を
コンサート・発表会・講演にどうぞご利用下さい。

〒101-0051東京都千代田区神田神保町2-5 北沢ビル2F
TEL.03-3263-0065 FAX.03-3263-0064



